

¡Hola, amigos!

第053号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、日本の友人・知人の皆さんに私達の近況をお知らせする手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は、なるべく毎週、日本時間の金曜朝05:00から07:00時に実施する予定です。臨時休刊の場合は前もってお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。

2004年11月25日 カアデイスにてR y N

☆今週号のトップヘジャンプ



「時化模様の日」の巻

11月に入ってから段々空気が澄んで冷たくなってきました。上天気の日が続き、同時に湿度もどんどん低くなってリップ・クリームの出番です。

けれども、私達がカアディスへ引っ越した10月の末はあまりいい天気ではありませんでした。去年は10月一杯全国的に雨模様の日が多く梅雨時のような感じだったことを憶えています。各地の水害のニュースもしきりでした。今年は少しマシですが、やはり10月の天候は毎年あまり良くはないようです。

引っ越し当日も、天気予報では雨でしたが幸いな事に荷物を引き渡す時も、受け取る時も雨はやんでいました。その後、何日もずっとハッキリしない天気でしたが10月のどん詰まりにとうとう時化模様になりました。

こうなると、ベランダには出れませんし、エントラダ(entrada=エントランス)も同じ方角で、外へ出ても遮る物なし、4~50メートルほど吹きさらしの道路を横に移動しなければなりません。折りたたみ傘などは役に立たないでしょう。

台風直撃のような大げさなものではありませんが、外出がしにくいこういう時のためにある程度の食料の買い置きは絶対必要だと思い知らされました。

ビーノとセルベサについては充分すぎるストックがありますが、やはり液体だけではどうにもなりません。この建物にも以前は裏口があったようですが、今、建物の裏はヨソの駐車場になっています。裏口があると普段の買い物にも便利なんですけどね。



鈍色の海。鉛色の海。この日の風速は秒速20メートル程度で、海上では日常茶飯の事、時化というほどのことでもない、まあ、ちょっとした強風。けれども、風向が南西、丁度真正面なのでベランダ越しに雨が窓を叩きます。



大西洋直面という事で、冬はもっと酷い事になるのでは、とひそかに思っていました。

外洋の大波が押寄せてくるのが見られるかと期待もしていました。

波高ももっと高くなってかなりシブキを被ることになるんじゃないか、と思っていたのです。ところがこの海岸の沖は遠浅なので大きいうねりはずっと沖で砕けてしまい渚ではおとなしくなって、こんな風に、迫力のある波ではなくなってしまいます。

海図で調べると、一旦深くなったあと又浅くなって一番遠い5 m等深線の位置は海岸線から1.5 哩(2.8 km)も沖でした。そこで海面下の防波堤になっているんです。

波頭が白く砕けても、風がうなっても船と違って全く揺れない。当たり前なことではありますが、こういう海を見ていると揺れない自分が不思議です。

この部屋は窓が全て二重になっているので、全部ピッタリ閉めてしまうと隙間風もなく風さえも唸りません。

ジョージ・クルーニー主演のパーフェクト・ストームという映画見ましたか？ あの映画の大波はコンピューター・グラフィックでちょっと違和感を感じました。いい映画でしたけどね。あの波の大きさは勿論誇張でしょうが、ものの本によると記録では20メートルを超える波はあったようです、幸いRはそれほどの波高は経験した事はありません。10メートル前後の波高は冬の北太平洋・北大西洋ではごく当たり前ですが、その程度の時化でも、海面は強風にあおられて一面に白い泡が沸き立ち、水面からは常時飛沫が飛ぶので視界は極度に悪くなります。あの荒天シーンはその辺が現実感の乏しい物でした。波の中のコンテナ船もオモチャっぽかったしね。

この一枚目の写真では水平線は全く見えないし、二枚目は見えますがハッキリしませんねコレが普通です。「天気晴朗なれども波高し」という事はありますが、それは寒冷前線が通過した後、上空は好天でも強風はまだ暫く続くという状況です。

東郷元帥が見た海は日本海を低気圧が通過した後、強い北西風の吹き荒れる海だったのでろうと思います。

大型船のブリッジ(船橋・操舵室)の高さは少なくとも10メートル台後半または20メートルを軽く超えますから、そこから見ていると波高10メートルの波も下に見えますが、漁船などからは同じ波でも小山のように感じられるのでしょね。視点が変われば同じ物も違って見えるわけ。



時化が去って数日、海はウソのように静まって渚の白い泡さえ殆ど見えません。時化の後こういう日があるからこそ救われるわけで、いくら揺れなくても時化っぱなしじゃたまりません。しかし、冬の北太平洋・北大西洋を横断するとき、マが悪いと出てから入るまで時化っぱなしという事はよく経験するところです。東から西へ行くときは次々に前から大低気圧がやってくる、西から東へ行くときは低気圧と連れになってしまうなんてこともありえます。何度も酷い目にあいました。蜘蛛の巣がはったような天気図をみてはウンザリしたもんです。

今では或る航海全般の天候予測をしてお奨めコースを教えてくれるサービスも普及しています。この会社は陸上でも各種のイベントに同じような情報を提供していますからご存知かも知れませんが、初めは社名の通り最適大洋航路の情報提供が主でした。最近ではコンピューターで膨大なデータも簡単に処理できるので的中率もかなり高くなっているようです。Rはあんまりお世話になったことはありません。タダではありま

せんから貧乏会社はそんなサービスは買わないのです。

今年猛威を振るった台風は、洋上では比較的対処しやすいといってもいいでしょう。とにかく勢力範囲に入らないように逃げればいんですからね。陸上のようにその場で待つしかない、というのとは違います。

中には迷走型なんていうのがあって進路予測が難しく、したがって逃げる方向を決めるのも難しいケースはありますが、これもコンピュータのお陰で随分正確な資料が得られるようになりました。 天気図を船上で手書きで書いていた頃は予想天気図なんて物はありませんでしたから、勘を頼りです。観天望気の世界です。

この数十年間にこの種の情報処理技術は実に大きな変化を遂げてとても便利になったと思いますが、時化そのものはなくならないどころか、地球的規模の異常気象でますます波高くなったのではないのでしょうか。いい時足を洗いました。



光る海。今日もいい夕日が見れるでしょう。ビーノも一段と旨いに違いない。***

「シンコ・セレアレス」の巻

cinco cereales と綴ります。シンコ(五つ)のセリアル(穀類)です。五穀です。

五穀豊穰なんて言葉はもはや死語に近いですね。自給自足を旨とする世界でこそ、この言葉には重みも喜びも感じられるのですが、なんでもかんでも安く輸入しちゃう、そして国内の物流も自由自在という昨今では、たまに何か作物が豊作だとすぐ豊作貧乏とか出荷調整とかいう字がちらつきます。出来すぎたキャベツ畑をトラクターで踏みにじるなんてのは何とかならんのでしょうかねー。

広辞苑によれば、五穀にはハッキリした定義がないようですが、まあ米・麦・粟ぐらいまでは間違いないところでしょう。あとは豆とか稗とか黍とかね。

このスペイン版五穀は何か？ 私達にはよく分かりません。なぜなら、これパンの名前なのです。前にソーハ(大豆)のパンの話をしましたね、あれの亜流だと思ってください。自然食品コーナーなどに五穀米というのがありますねアレのスペイン版です。ソーハのパンもシンコ・セレアレスのパンも材料は砕かれてしまってますから何が入っているかは見た目ではよく分かりません。パン生地は全粒粉に違いありませんからまず小麦。少し焦げたソーハらしきものが見えます。粟粒も。黄色いかけらはとうもろこしか？ コレで4種。後一つがどうしても見分けが付きません。

まあ、そんなことはともかく、美味しきやいいわけ。旨いんですねー、これが。ソーハのパンに優るとも劣らず、全粒粉独特の軽い歯ざわりに加えて、多分炒って砕いたであろう五穀の香ばしさがあります。

このパン屋迄は百メートル位、メイン・ストリートに面してます。もっと近いパン屋もありますが、そっちにはソーハもシンコ・セレアレスもありません。

午前中早い時間に行くと、まだ焼き立ての暖かいパンが色々並んでいます。このパン屋もどうやら北欧系らしい感じですが、前に紹介したソーハのパンが旨いベナルマデナの店もそうでした。パンは北方系に限るのかな？

何かの本でスペインのパンは不味いと書いてあったのを見たことがありますが、私達の印象では旨いのもアリ、ダメなものもアリ、共通項は日本より安い、です。

私達は幸いベナルマデナでもカアディスでも近くにいいパン屋を見つけることができ

ました。これは食生活上かなり重要な意味を持っています。何しろゴハンがまるつきりナットラン世界ですからね。



細いのも丸いのも同じ生地で焼いたシンコ・セレアレス。こうやってオリーブ油をかけて食べるには細い方が食べやすい。丸い方はオリーブ油を小皿にとって、パンを切るなりちぎるなりして、つけながら食べます。

ソーハやシンコ・セレアレスが旨いと思う大きな理由の一つは、オリーブ油のクセが香ばしさとよくマッチするからだだと思います。白いパンでは敏感なヒトはオリーブ油を油くさいと思ってしまうかも知れません。全粒粉のパンをお奨めします。

この写真のオリーブ油はアルバーカ (albahaca・バジル) 風味ですが、アホ (にんにく) 風味のクセも香ばしいパンと一緒にだと気になりません。

ある友人からの情報。最近の説ではアホ (にんにく) とオリーブ油が脳の老化防止に卓効アリとか、では私達はまずボケる事はないか？ 少なくともこれ以上は。***

「カアディス散策・その一」

(海岸遊歩道の巻)

これから折に触れカアディス市内のめぼしい所を順番に紹介してゆくつもりです。まずは手近なところから。何しろ引っ越し貧乏で、当分は遠出のエクスカージョンはナシ。歩いて行って帰れるタダの所中心です。その点このカアディスの半島内なら何処でも歩いて行けないところはありません。歩けば自然に道も覚えるし、何処にどんな物を売っている店があるかも少しずつ頭に残ってゆくでしょう。

この、何処に何を売っているかという情報は実に貴重で、私達は自分の足と目でソレを探すしかないので。前にも言ったことだと思いますが、パヒナ・アマリーヤ（イエロー・ページ）は実に頼りなくて、殆ど宛てにはなりません。ヒトに聞けば誰でも親切に教えてくれますが、その信頼性は???、これまたあまり当てになりません。例えば、わが管理人氏、アンドレス(Andrés)はすこぶるつきの好人物ですが、引っ越しきて間もない頃、最寄の郵便局の所在を彼に聞きました。

私達はこれまでも家探しのため何回もカアディス参りをしてカナリの範囲を歩き回っています。だから近くのサッカー場のすぐ向こう、ウチから500メートル位の所に大きな郵便局があるのは知っていました。ソコ是集配センターのようなところかも知れない、とにかく大きな建物です。その他に私達が気付かずにいる小さなのがもっと近くにあるかも知れないと思ったのです。ところが、アンドレスが教えてくれたのはソレとは反対方向に1キロ以上はなれた郵便局でした。

でも、エスタディオの向こうにも郵便局があるんじゃないの？ と聞くと彼はそれを全く知らないんです。ヘー、そんなトコにあるの?? だって。一事が万事この調子です。何を聞いても、みんな本当に親切に教えてはくれるんですが、道順の説明も必ずしも分かりやすいとは言い難いのです。

勿論それは私達の語学力・理解力の問題でもありますが、言葉もろくすっぽ分からない外国人に説明するにしてはあまりに分かり難い説明が多いんですね。

そこで、地図大好き人間Rは常に地図を持って歩いて地図上で示してもらおうと思うのですが、これまた旨く行きません。皆さんあまり地図のゴヤツカイにはなっていない

いらしくて地図を睨んで考え込んじゃうヒトが多いんです。

デ、結局自分の足で自分の目で一つ一つ覚えて行くのが一番手っ取り早いと納得。
ところで、私達の住所はパセオ・マリティモ(Paseo Maritimo) だと言いましたね。
これは海岸遊歩道という意味です。半島の外海側も内海側も殆ど全長に亘って海岸に
沿って遊歩道が作られていますが、このうち住居表示が Paseo Maritimo となってい
るのはウチの前の通りを左へ1キロ右へ0.5キロの部分だけです。

欲目ではなくこの部分は特に整備が行き届いているようです。ここには四つ星ホテル
が二つあるし前の浜は海水浴場なので内外の観光客の目に触れる所だからでしょう。



コレがパセオ・マリティモ。この写真でははっきりしませんがこのすぐ右側に遊歩道
の半分ぐらいの幅の車道が並行しています。左手遠くに見えるのが旧市街。

この写真は平日の朝。休日の昼になるとヒトが溢れます。



コレは平日深夜近くの顔。照明は明るく、10階の我が家からもはっきりヒトを識別できるでしょう。但し今のところ知った人が通ることはありませんけどね。

この遊歩道が賑わうのは土・日・祭日の正午前後と夕方。いずれにしても朝のうちは人は少ないです。朝歩いている人は本気に歩く気で歩いているヒト、エキササイズ・

ウォーキングですネ。勿論ジョギング組も。

土曜の午前中は皆週一回の朝寝をむさぼっているのでしょうし、日曜の午前はミサに行くので散歩に来る人は稀なのでしょう。昼近くにやっと賑わってきます。

午後二時頃になると、それまでゾロゾロ切れ目なしに歩いていた人達がぴたっといなくなります。そろそろ昼食なんですね。スペインの人達にとって一番大事な昼食とそ

れに続くシェスタ。静かな時間が五時半か六時ごろまで続きます。

午後のこの時間帯は平日でもオフィスや商店は全部閉まります。スーパーさえも殆ど閉まってしまうのです。ベナルマデナでは少なくともスーパーにはシェスタ休みはあ

りませんでした。それだけここカアディスはスペイン度が高いという事か？



ベランダから見た遊歩道。土曜日の正午前。これから段々ヒトが出てくる時間です。すぐ前が一車線一方通行の道路、その向こうが遊歩道です。遊歩道の幅は広くなったり狭くなったりですがこの部分はやや狭くなっています。コレは一つ前の夜景と同じ場所、一番初めの写真は遊歩道が広くなったところ、二つの四つ星ホテルの間です。前の車道は、たぶん初めは二車線道路だったんでしょうね。でも、海に来る人の違法駐車が増えないので二車線として機能せず、エエイ片側は駐車帯にしちまエ、という事になったんじゃないかと勝手に思っています。

私達が恐れているのはこの道路が夏の盛りにはどうなるのか、ということです。湘南の道路なみに車が溢れるんじゃないか。私達は車がないので渋滞しようが違法駐車があろうが知った事ではありませんが、困るのはクラクションの騒音。前へ進もうにも思うに任せないとなると必ずプー！ というヤツが出てくる。そうなるともう連鎖反応です。これはイヤですねー。

引っ越した時は既に喧騒の夏を過ぎていたので、これまでの所酔っ払いのオタケビもクラクションの怒号も、盗難防止アラームも聞えませんが、サテ夏はどうか？



もう一つの散歩道、ソレは波打ち際。手前にゴールデン・レトリバーを連れたオバさんが居ますが、そこで砂の色が変わってますね。ココが満潮線で、ここから先は砂が湿っています。砂粒がとても細かいので海水に濡れて締まると足跡も殆ど残らないほど硬くなってビーチ・ウォーキングにはもってこいです。自転車で走っても埋まりません。座り込んで又は寝ッ転がってノンビリするヒトは暖かく白く乾いた砂の上。乾いた砂の部分即ち満潮線より上はこの辺で100メートルちょっと。満潮線と干潮線との幅は毎日変わりますからはっきり言えませんが平均してやはり100メートル以上。だから潮が引ききると浜は一気に倍に広がります。この写真は潮が引きつつある中間の時間帯です。これでも充分広い、固く締まった砂地の遊歩道。快適です。ところで、この写真にはゴールデンとその向こうに白い中型犬が見えますね。ベナルマデナでは圧倒的にヨークシャーやウェスティなどの小型犬が多かったのですが、ココでは中・大型犬が主流のようです。ベナルマデナには結構あった戸建て住宅がここには殆どないというのにです。ということは、ソレはそのまま飼い主の年齢層の表れではないか、体力の差ではないか。Nも犬が欲しくてしょうがないんですが、モシ飼えらしたら小型か中型か大型か？ それに見合う財布と体力は??***
